

(電子メール施行)
農技 1569 号
令和3年3月18日

関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

令和2年度病虫害発生予報第8号を發表します。

令和2年度病虫害発生予報 第8号

向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
トマト	疫病	やや少	少
	灰色かび病	平年並	やや少
	葉かび病	平年並	少
	コナジラミ類	平年並	少
	アブラムシ類	平年並	少
春キャベツ	黒腐病	やや少	少
	菌核病	やや多	平年並
	アブラムシ類	平年並	少
	モンシロチョウ	平年並	やや少
	コナガ	平年並	少
タマネギ	白色疫病	やや少	少
	細菌性病害	やや多	やや少
	べと病	やや多	やや少
	灰色腐敗病	平年並	やや少
	ネギアザミウマ	やや多	やや多
春レタス	灰色かび病	やや多	平年並
	菌核病	やや多	やや少
イチゴ	灰色かび病	平年並	少
	うどんこ病	やや多	平年並
	アブラムシ類	平年並	やや少
	ハダニ類	やや多	平年並
	アザミウマ類	平年並	やや少

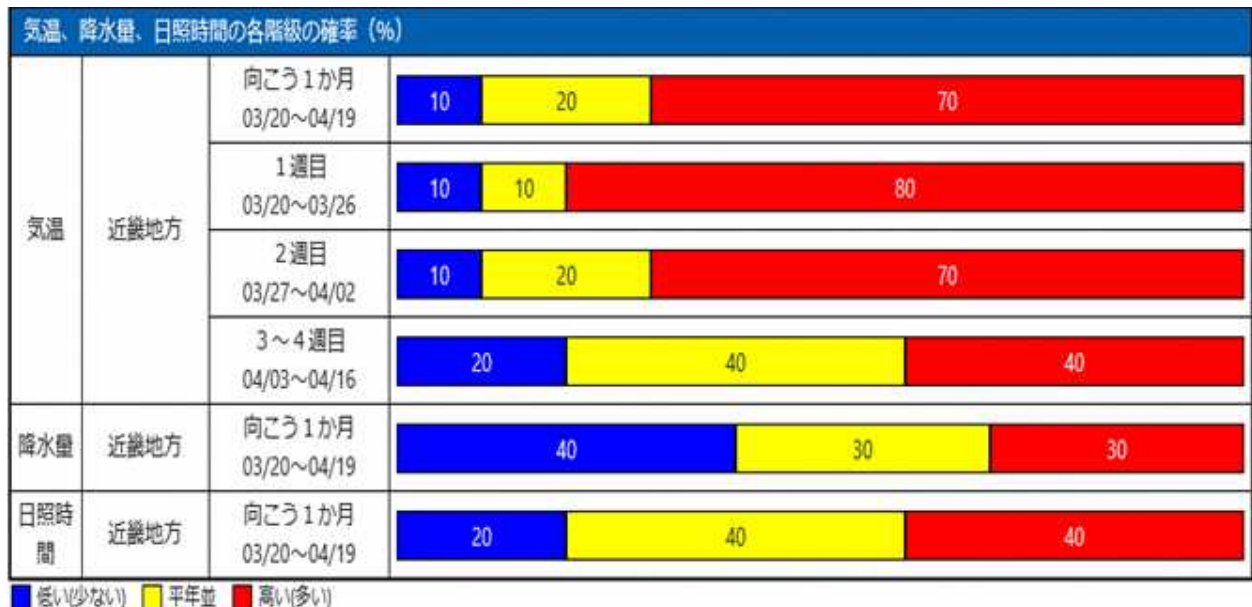
* 気象の概況

近畿地方 1か月予報

(3月20日から4月19日までの天候見通し)

令和2年3月18日
大阪管区气象台 発表

近畿地方 1か月予報 (03/20~04/19)		
2021年03月18日 14時30分 大阪管区气象台 発表		
特に注意を要する事項		期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
向こう1か月 03/20~04/19	天候	天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率70%です。
	日照時間	日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。
1週目 03/20~03/26	気温	1週目は、高い確率80%です。
2週目 03/27~04/02	気温	2週目は、高い確率70%です。
3~4週目 04/03~04/16	気温	3~4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。



*** 発生概況及び防除対策上の留意点**

トマト

1 【疫病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠

ア 2月上、下旬の調査では発生は確認されていない。

イ 今後1か月の気象予報によると、降水量は平年並になると予想されている。施設内は多湿条件になりやすく本病の発生に助長的であるが、現時点で発生は確認されていないことから、今後はやや少ない発生になると考えられる。

2 【灰色かび病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 2月下旬に神戸地域の調査でわずかに発生が確認されている。

イ 今後1か月の気象予報によると、降水量は平年並になると予想されており、施設内は多湿条件になりやすく発病が助長され、今後は平年並の発生になると考えられる。

3 【葉かび病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 2月上、下旬の調査では発生は確認されていない。

イ 今後1か月の気象予報によると、降水量は平年並になると予想されており、施設内は多湿条件になりやすく発病が助長され、今後は平年並の発生になると考えられる。

4 【コナジラミ類】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 2月上、下旬の調査では発生は確認されていない。

イ コナジラミ類はハウス内で越冬し、例年3月以降気温の上昇とともに増殖する。今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高くなると予想されており、本種の増殖に好適な条件が続くことから、平年並の発生になると考えられる。

5 【アブラムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 2月上、下旬の調査では発生は確認されていない。

イ 本種は例年3月に発生がみられており、今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高くなると予想されており、本種の増殖に好適な条件が続くことから、平年並の発生になると考えられる。

春キャベツ

1 【黒腐病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 2月上旬、3月上旬の調査では発生は確認されていない。
 - イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されており、本病の発生に助長的であるが、現時点での発生は確認されていないことから、本病はやや少ない発生になると考えられる。

2 【菌核病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠
- ア 3月上旬の調査では発生は確認されていない（平年値：発生圃場率^ほ22.3%、発病株率1.5%）。しかし、2月上旬の神戸・播磨・淡路地域の調査では、発生圃場率20%、発病株率0.9%と平年並の発生であった。
 - イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されており、気温の上昇と降雨により発病が助長され、やや多い発生になると考えられる。
- (3) 防除上の留意点
- ア 発病株は、菌核が形成される前に抜き取って圃場外に処分する。発病が認められた圃場では二次感染が懸念されるので、薬剤防除を実施する。
 - イ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、感受性低下を避けるために同系統の薬剤の連用は控える。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>

3 【アブラムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 2月上旬、3月上旬の調査では発生は確認されていない。
 - イ 本種は例年3月に発生がみられている。今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高くなると予想されており、本種の増殖に好適な条件が続くことから、平年並の発生になると考えられる。

4 【モンシロチョウ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 2月上旬の調査では発生は確認されていないが、3月上旬の場内圃場で成虫の発生が確認されている。
 - イ 本種は蛹で越冬しており、春に羽化する。今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高くなると予想されており、成虫の発生が増えるに伴い、幼虫の発生がみられると考えられる。

5 【コナガ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 2月上旬、3月上旬の調査では発生は確認されていない。
 - イ 本種は例年春期から発生がみられる。今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高くなると予想されており、本種の増殖に好適な条件が続くことから、平年並の発生になると考えられる。

タマネギ

1 【白色疫病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 2月、3月上旬の調査では発生は確認されていない。
 - イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されており、本病の発生に助長的であるが、現時点での発生は確認されていないことから、やや少ない発生になると考えられる。

2 【細菌性病害】

- (1) 予報の内容 発生量：**やや多**
- (2) 予報の根拠
- ア 3月上旬の淡路地域の調査では発生圃場率は5.7%（前年同期：13.0%）、発病株率は0.02%（同：0.06%）とやや少ない発生であった。
 - イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されていることから、気温の上昇と降雨により本病の発生が助長され、発生はやや多くなると考えられる。
- (3) 防除上の留意点
- ア 伝染源となる腐敗株を早期に抜き取り、圃場外で処分する。
 - イ 排水不良は本病の発病を助長するので、明渠等により圃場排水対策を徹底する。
 - ウ 収穫時の傷口から本病が感染して貯蔵腐敗に結びつくので収穫は晴天時に行い、切り口を十分乾燥させるように努める。
 - エ 薬剤防除は発生の有無にかかわらず、必ず実施する。薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）、地域の防除暦等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、感受性低下を避けるために同系統の薬剤の連用は控える。薬剤散布にあたっては散布ムラがないよう丁寧に、かつ薬液が十分付着するように行う。
病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）
(<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

3 【べと病】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 2月上、下旬の調査では発生は確認されていないが、3月上旬の淡路地域の調査では常発地において発生が認められた。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、本病の発生に好適な気象条件であることから、やや多い発生になると予想される。

(3) 防除上の留意点

ア 一次感染株の抜き取りを徹底する。抜き取りにあたっては、病徴が徐々に発現するため、茎葉が繁茂するまで定期的によく観察する。また、胞子の飛散を防ぐため、抜き取った株は直ちにポリ袋などに入れて必ず圃場外に持ち出した上で、その重量に対して1%の割合で石灰窒素を混ぜて、密封して確実に腐らせてから処分する。

イ 薬剤防除は発生の有無にかかわらず、必ず実施する。薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）、地域の防除暦等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、感受性低下を避けるために同系統の薬剤の連用は控える。薬剤散布にあたっては散布ムラがないよう丁寧に、かつ薬液が十分付着するように行う。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>

4 【灰色腐敗病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 2月上、下旬の調査では発生は確認されていない。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。本病は温暖多雨で発生が助長されるので、本病の発生は平年並になると考えられる。

5 【ネギアザミウマ】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の場内圃場の調査では成・幼虫の虫数は4.0頭/株(平年値2.0頭)とやや多い発生であった。同時期に淡路地域で行った調査によると、発生圃場率は極早生～早生品種で100%、中生～晩生品種で43.8%と、早生系品種で多い傾向が見られる。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本種に好適な条件が続くことから、やや多い発生の状態で推移すると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 薬剤防除は地域の防除暦に従って実施して、圃場内の密度を下げるようにする。薬剤散布にあたって散布ムラがないよう丁寧に、かつ薬液が十分付着するよう

に行う。

イ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、感受性低下を避けるために同系統の薬剤の連用は控える。

ウ ネギアザミウマの発生状況については、令和2年度病害虫発生予察防除情報第6号（令和3年3月17日付）を公表しているため、参考にすること（HPに掲載）。
病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）
(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

春レタス

1 【灰色かび病】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 2月上、下旬の淡路地域の調査では発生圃場率は21.9%（前年値10.0%）、発病株率は0.6%（前年値0.2%）と平年並の発生であった。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されており、発生が助長され、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア トンネル内の湿度が上がると本病は多発するので、トンネル換気を行う。

イ 発病株は早期に発見し、抜き取って圃場外に処分する。発病が認められた圃場では、薬剤散布を実施する。防除薬剤については、兵庫県農薬情報システムを参考に選定し、農薬使用基準を遵守し、感受性低下を避けるために同一成分を含む薬剤の連用は控える。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

2 【菌核病】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 2月上、下旬の淡路地域の調査では発生圃場率は3.1%（前年値5.0%）、発病株率は0.1%（前年値0.1%）とやや少ない発生であった。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されており、本病の発病（菌核からの子のう盤の発生、子のう胞子の飛散）には好適な気象条件となる。このことから、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 発病株は早期に発見し、菌核が形成される前に抜き取って圃場外に処分する。発病が認められた圃場では二次感染が懸念されるので、薬剤散布を実施する。

イ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）、地域の防除暦等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、感受性低下を避けるために同系統の薬剤の連用は控える。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

イチゴ

1 【灰色かび病】

- (1) 予報の内容
- (2) 予報の根拠

発生量： 平年並

- ア 2月上旬、3月上旬の調査では発生は確認されていない。
- イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。施設内は高温多湿になりやすく、今後発病が助長され、本病は平年並の発生になると考えられる。

2 【うどんこ病】

- (1) 予報の内容
- (2) 予報の根拠

発生量： **やや多**

- ア 2月上旬の神戸地域の調査では発病株率6.0%（前年値6.0%）の発生が確認されており、3月上旬の場内圃場でも平年並の発生が確認された。
 - イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。施設内は高温多湿になりやすく、今後発病が助長され、本病はやや多い発生になると考えられる。
- (3) 防除上の留意点
- ア 防除は予防に重点を置く。発病を認めた時は、散布間隔を短くして集中的に散布する。発病果は有力な伝染源となるので速やかに除去する。薬剤散布を行う場合は、薬液が葉裏や未展開葉のすき間に届くように行うこと。
 - イ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、感受性低下を避けるために同系統の薬剤の連用は控える。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>

3 【アブラムシ類】

- (1) 予報の内容
- (2) 予報の根拠

発生量： 平年並

- ア 2月上旬の調査では発生は確認されていないが、3月上旬の場内圃場ではわずかに発生が確認された。
- イ 本種は例年3月に発生がみられており、施設内はアブラムシ類にとって好適な高温条件になりやすいことに加えて、今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高いと予想されていることから、発生は平年並になると考えられる。

4 【ハダニ類】

- (1) 予報の内容
- (2) 予報の根拠

発生量： **やや多**

- ア 2月上旬の神戸地域の調査では発生株率17.0%（前年値18.0%）の発生が確認されており、3月上旬の場内圃場でも平年並の発生であった。
- イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高いと予想されている。施設内はハダニ類に好適な高温条件になりやすいことから、やや多い発生となると考え

られる。現在ハダニが発生している施設では特に注意が必要である。

(3) 防除上の留意点

ア 薬剤散布を行う場合は、薬液が葉の裏に十分かかるように行うこと。

イ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、感受性低下を避けるために同系統の薬剤の連用は控える。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>

5 【アザミウマ類】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 2月上旬の調査では発生は確認されていないが、3月上旬の場内圃場(加西市)ではわずかに発生が確認された。

イ 本種は例年3月に発生がみられており、施設内はアザミウマ類にとって好適な高温条件になりやすいことに加えて、今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高いと予想されていることから、発生は平年並になると考えられる。

* この情報及び防除情報（ネギアザミウマの発生状況について）は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載

<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>